

水と緑を大切に、すべての人に安全で潤いのある暮らしを実現します

安全で安心して暮らせるまちをつくりま



新馬込橋架替工事（上部工架設）

5年後のめざす姿

○高齢者や子ども、障がい者、外国人などを含めたすべての人が、安全で安心して暮らせる都市になっています

これまでの成果

- 木造密集市街地整備促進事業や住宅耐震診断・改修助成事業により、自然更新を含めて大森中地域の不燃領域率*1は平成9年の36%から22年には64%となり、区の耐震化率*2は21年の79.2%から毎年約2%アップしています。
- 橋梁*3の耐震化について、優先して対策を講じるべき73橋（優先対策橋梁）のうち、平成20年度までに整備が完了した21橋に加え、新たに11橋を完了し、災害時の避難路、緊急輸送路としての機能を確保しました。集中豪雨による浸水被害対策では、道路の透水性舗装*4、浸透ます*5の設置などを行いました。
- バリアフリー*整備では、区内43駅のうち、エレベーター設置支援事業や鉄道事業者への要望などにより、39駅までバリアフリー*化を進めました。
- 多くの人が集まる拠点のユニバーサルデザイン*化を推進するため、バリアフリー*法に基づく重点整備地区（2地区）の推進計画を策定しました。
- 都市基盤施設の維持・更新では、平成21年度に橋梁*長寿命化修繕計画を策定し、対症療发型から予防保全型の維持管理への転換を推進しています。
- 住環境づくりでは、新たな「大田区住宅マスタープラン」を策定し、区営住宅整備や民間マンションへの支援、違反建築パトロールなどにより、良好な住環境の維持に努めました。

現状と課題

- 東京都が平成24年に公表した新たな被害想定では、被害の拡大が予想されています。発災時の被害を最小限に抑えるため、木造密集市街地の不燃化や、建築物の耐震性をさらに向上し、災害に強いまちづくりを進めることが重要です。東日本大震災での液状化*6被害を踏まえ、新たに対策が求められています。
- 優先対策橋梁の整備率は44%で、今後も計画的な架替え・耐震補強整備が必要です。都市型集中豪雨は、年々増加傾向にあり、総合的な治水対策の強化が求められます。
- 公共施設、民間施設を問わず、バリアのないまちで円滑な移動を実現するためには、引き続きユニバーサルデザイン*の視点で点検を行い、未整備部分を着実に整備することが必要です。
- 道路・橋梁*・河川など都市基盤施設の維持更新は、区民の安全・安心に直結する重要な課題であり、老朽化の状況に応じて引き続き対策を講じなければなりません。
- 良好な住環境を保全するため、地域の特性を踏まえながら、新たに策定した「大田区住宅マスタープラン」を着実に推進する必要があります。

*1 不燃領域率

地区内における道路、公園や燃えにくい建物が占める面積割合で、まちの燃えにくさを表す指標。

*2 耐震化率

耐震性を満たす建物数が建物総数に占める割合。

*3 橋梁

河川や道路、鉄道、運河などをまたぐ橋。

*4 透水性舗装

水の浸透能力のある舗装のことで、普通の舗装より雨水が舗装の表面を流れずに地下へ浸透しやすくなり、雨水の流出抑制や地下水のかん養などの効果がある。

*5 浸透ます

雨水を地下に浸透しやすくするためのます。底面に碎石を充填し、集水した雨水をその底面から地中に浸透させる。

*6 液状化

地震の際に、地下水位の高い砂質地盤が振動により液体状になる現象。このことにより比重の大きい構造物が沈んだり、傾いたり、地中の比重の小さい構造物（下水管等）が浮き上がったりすること。

指標に注目!

◆めざす姿にどれだけ近づいたかを測るモノサシ（指標）と目標値

| モノサシ（指標） | 未来プラン策定時の「現状」 | 25年度 | | 30年度 |
|----------------------------------|---|------|---|------------------------------------|
| | | 中間目標 | 最新値 | 目標値 |
| 東京都防災都市づくり推進計画の整備地域における不燃領域率*（%） | 大森中地域52% 羽田地域— 西蒲田地域52% （平成16年度） | — | 大森中地域64% 羽田地域45% 西蒲田地域60% （平成22年度） | 大森中地域70%超 羽田地域60%超 西蒲田地域70%超 |
| 大田区内の耐震化率*（%） | 75.6%（平成18年度） | — | 79.2%（平成21年度） | 90%超 |
| 駅周辺のバリアフリー*化が進んだと感じる区民の割合（%） | — | — | 32.3%（平成25年度） | 40% |

施策の体系

枠で囲んである事業は、その主な取り組み内容を次ページ以降で紹介しています。

安全で安心して暮らせるまちをつくりま

1 災害に強いまちづくり

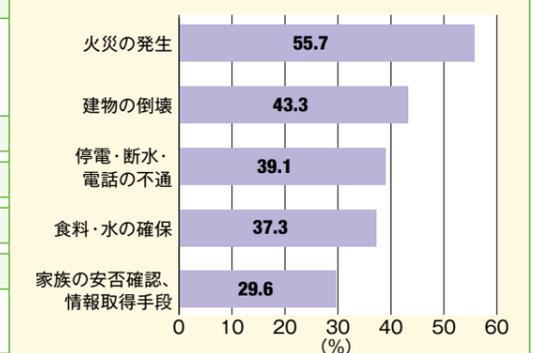
- 木造密集市街地の整備促進
- 建築物の耐震改修促進
- 液状化対策の推進
↳ 地盤データの公開、地盤補強方法の情報提供及び相談体制の整備を推進
- 橋梁*の耐震性の向上
- 下水道の整備
- 総合治水対策
- 災害時水上輸送ネットワークの向上

2 安全で円滑に移動できるまちづくり

- 移動を円滑にするユニバーサルデザイン*の推進
- 鉄道駅舎のバリアフリー*化の推進
↳ ホーム転落防止対策を含め、さらなるバリアフリー*化の推進を鉄道事業者に働きかけ
- 建築物のバリアフリー*化の推進
↳ 東京都条例、大田区要綱に規定する建築物などや区有施設のバリアフリー*化を推進
- 誰にもわかりやすい掲示物など情報のユニバーサルデザイン*化（再掲1-2-2）
- 自転車等利用総合対策の推進（再掲2-1-2）
- だれでもトイレの整備
↳ 高齢者・車いす利用者・乳幼児連れなど誰もが利用しやすいトイレの整備

参考データ

▶ 大地震が発生した場合、区民が特に不安だと思うもの（上位5項目）



出典：平成24年度 大田区政に関する世論調査

水と緑を大切に、すべての人に安全で潤いのある暮らしを実現します

安全で安心して暮らせるまちをつくりま

3 安心して暮らせるまちづくり

- 都市基盤施設の維持更新
- 生活安全の確保
- 交通安全の推進

4 快適な住環境づくり

- 住宅マスタープランの推進
 - 良質な住宅ストックの形成や高齢者住宅供給などの事業により住宅マスタープランを推進
- 良好な住環境の確保
 - 狭い道路の拡幅整備、違反建築防止パトロール
- 安全な設計・施工の支援
 - 円滑で厳格な建築確認、検査・工事監理、指定確認検査機関への指導・監督の徹底

架替え前 橋梁の耐震性の向上 架替え後

仲之橋



平成25年度竣工

八幡橋



平成24年度竣工

新馬込橋



平成26年度竣工予定

(新馬込橋の架替え後の写真は完成予想図です)

施策の方向性と主な事業

1 災害に強いまちづくり

地震や水害に強いまちをめざし、橋梁*などの公共施設の耐震化を順次進めるとともに、木造密集市街地や主要道路沿道の民間建築物の不燃化・耐震化を促進し、災害時の水上輸送ネットワークを構築します。雨水管の整備や下水道の耐震化、透水性舗装*を行うほか、広域的な防災体制を整備します。

主な事業

木造密集市街地の整備促進

不燃化建替え助成などを行い、木造住宅が密集する市街地、地区防災道路沿道の不燃化・耐震化を促進します。

| (平成/年度) | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31~ |
|--------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 住宅市街地総合整備事業 | → | | | | | 継続 |
| 都市防災不燃化促進事業 | 18棟 | 18棟 | 18棟 | 18棟 | 18棟 | 継続 |
| 不燃化特区制度を活用した不燃化まちづくり助成事業 | 30棟 | 30棟 | 30棟 | 30棟 | 30棟 | 継続 |

建築物の耐震改修促進

耐震化助成などを行い、主要道路沿道の民間建築物などの耐震化を促進します。

| (平成/年度) | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31~ |
|--------------------|------|------|------|------|------|-----|
| 住宅・マンションなどの耐震化促進 | 114棟 | 114棟 | 114棟 | 114棟 | 114棟 | 継続 |
| 緊急輸送道路沿道建築物の耐震化促進 | 11棟 | 17棟 | | | | |
| 沿道耐震化道路沿い建築物の耐震化促進 | | 1棟 | 1棟 | 1棟 | 1棟 | 継続 |

橋梁*の耐震性の向上

区が管理する橋梁*の中で、緊急道路障害物除去路線*7や鉄道を跨ぐ橋梁*など、防災上重要な優先対策橋梁*73橋のうち、未整備の橋の架替え・耐震補強整備を計画的に進めます(33橋の架替え整備・耐震補強整備に着手)。

| (平成/年度) | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31~ |
|---------|----|----|----|----|----|-----|
| 架替え整備 | → | | | | | 検証 |
| 耐震補強整備 | → | | | | | 検証 |

*7 緊急道路障害物除去路線
震災時における緊急車両の通行を確保するために、障害物の除去や応急復旧を優先的に行う道路。

水と緑を大切に、すべての人に安全で潤いのある暮らしを実現します

安全で安心して暮らせるまちをつくります

■ 下水道の整備

東京都と連携しながら、下水道管の耐震性の強化や、雨水管整備による排水能力の向上など、区民の安全と快適な暮らしを支える下水道の整備を進めます。

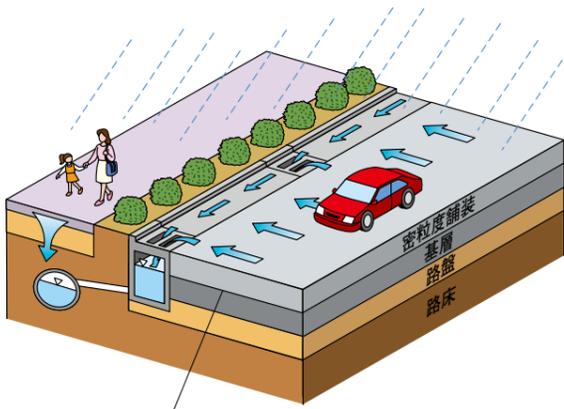
| (平成/年度) | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31~ |
|----------|----|----|----|----|----|-----|
| 雨水管などの整備 | → | | | | | 検証 |
| 下水道管の耐震化 | → | | | | | 検証 |

■ 総合治水対策

頻発する集中豪雨や台風などの大雨から区民の安全を守り、安心できる生活を支えるために、道路・公園・建物などからの雨水の流出を抑制し、下水道や河川に流入する雨水の量を軽減する総合的な治水対策に取り組みます。

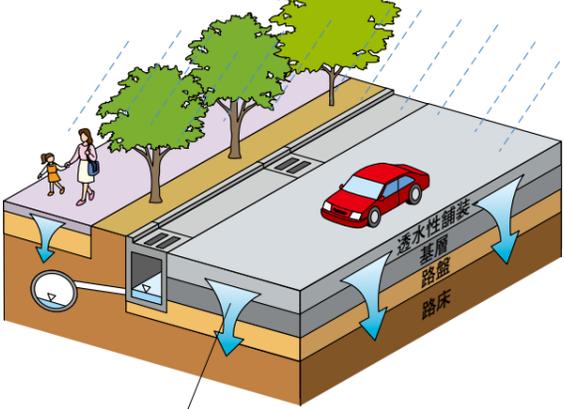
| (平成/年度) | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31~ |
|---------------------|----|----|----|----|----|-----|
| 浸水被害地区浸水対策の東京都との連携 | → | | | | | 検証 |
| 透水性舗装* | → | | | | | 検証 |
| 道路、公園などの浸透ます*の設置 | → | | | | | 検証 |
| 開発事業者に対しての雨水流出抑制の指導 | → | | | | | 検証 |

普通の舗装



雨水は地下にしみ込まない

透水性舗装



舗装を通して雨水が地下にしみ込む

道路に降った雨水が地下へ浸透しやすくなり、雨水の流出抑制や地下水のかん養などの効果がある透水性舗装

■ 災害時水上輸送ネットワークの向上

災害時における水上輸送ネットワークを構築するため、河川や運河を利用した緊急時の輸送ルート確保や船着場の整備・改築を行うとともに、関係団体などとの連携体制を強化します。

| (平成/年度) | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31~ |
|-------------|----|----|----|----|----|-----|
| 防災船着場の整備・改築 | → | | | | | 継続 |
| 関係団体などとの連携 | → | | | | | 継続 |

2 安全で円滑に移動できるまちづくり

新たに策定した「移動等円滑化推進計画」に基づき、蒲田・大森を中心とした地域の公共施設や民間施設のバリアフリー*化に取り組みます。区有施設などのほか、鉄道駅舎においては、鉄道事業者への働きかけにより、さらなるバリアフリー*化を推進します。サイン整備を推進し、誰もが円滑に移動できる環境づくりを進めます。

主な事業

■ 移動を円滑にするユニバーサルデザイン*の推進

「ユニバーサルデザイン*のまちづくり基本方針」及び「移動等円滑化推進方針」に基づき、多くの人が集まる拠点や公共施設、民間施設のユニバーサルデザイン*環境を充実させます。

| (平成/年度) | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31~ |
|---------------------------------|----|-----|----|----|----|-----|
| かまた街なか“すいすい”プラン(移動等円滑化推進計画)の実施 | → | 見直し | → | | | 継続 |
| おおもり街なか“すいすい”プラン(移動等円滑化推進計画)の実施 | → | 見直し | → | | | 継続 |
| 主要拠点及び生活関連施設などの点検及び整備 | → | | | | | 継続 |
| 区有施設のユニバーサルデザイン*の点検及び整備 | → | | | | | 継続 |

■ 誰にもわかりやすい掲示物など情報のユニバーサルデザイン*化 (再掲1-2-2) →

■ 自転車等利用総合対策の推進 (再掲2-1-2) →

水と緑を大切に、すべての人に安全で潤いのある暮らしを実現します

安全で安心して暮らせるまちをつくりま

3 安心して暮らせるまちづくり

地域の安全と安心を確保するため、道路や橋梁*など、老朽化が進む都市基盤施設の延命化や、計画的な維持管理を行います。また、区民が身近に感じる安全という視点から、生活安全、交通安全に関する取り組みを推進します。

主な事業

都市基盤施設の維持更新

道路・橋梁*などの維持管理手法を対症療法型から予防保全型へ転換し、都市基盤施設を延命化するとともに、PDCAサイクル*⁸に基づく計画的な維持管理を行い、施設の安全性を確保します。

| | | (平成/年度) | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31~ |
|----------------|-------------------------|---------|----|----|----|----|----|-----|
| 橋梁*長寿命化修繕計画の推進 | 橋梁*の定期点検・橋梁*長寿命化修繕計画の策定 | → | | | | | | 検証 |
| | 橋梁*の補修 | | | → | → | → | → | 検証 |
| 道路の維持・更新計画の推進 | 道路の点検と維持更新計画の策定 | → | | | | | | 検証 |
| | 道路の維持・更新 | | | → | → | → | → | 継続 |

生活安全の確保

区道に設置されている街路灯を、環境面とライフサイクルコスト*⁹に優れたLED*¹⁰街路灯として整備することで、歩行者や自転車の夜間における視認性を高め、区道における安全を確保します。私道における防犯灯設置助成を自治会・町会*などに行うとともに、区民と連携したパトロールを行い、地域の生活安全を確保します。

| | | (平成/年度) | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31~ |
|------------------|--|---------|----|----|----|----|----|-----|
| LED街路灯整備の推進 | | | → | → | → | → | → | 完了 |
| 防犯灯設置助成 | | | → | → | → | → | → | 継続 |
| 夜間巡回パトロールの実施(再掲) | | | → | → | → | → | → | 継続 |

***8 PDCAサイクル**
事業活動における管理業務を円滑に進める手法の一つ。Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Act（改善）の4段階を繰り返すことにより、業務を継続的に改善する。

***9 ライフサイクルコスト**
建物・施設にかかる生涯コストのこと。建物・施設の企画・設計に始まり、竣工、運用を経て、寿命がきて解体処分するまでを建物の生涯と定義して、その全期間に要する費用を意味する。

***10 LED（照明）**
発光ダイオード（LED）を使用した照明器具。省エネ性能に優れる（長寿命で、低消費電力、軽量、コンパクトという特徴を持つ）。

交通安全の推進

JR京浜東北線・東海道線を横断している学校踏切などにおいて、電車との接触事故の危険性を無くすため、安心して、安全に横断できる施設の整備を進めます。また、子どもから高齢者まで幅広い世代を対象に、交通安全意識の普及と浸透を図るとともに、交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践を習慣付けることにより交通事故防止を図ります。

| (平成/年度) | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31~ |
|---------------|----|----|----|----|----|-----|
| 踏切における安全対策の推進 | → | → | → | → | → | 継続 |
| 交通安全教育の推進 | → | → | → | → | → | 継続 |

4 快適な住環境づくり

「住宅マスタープラン」に掲げる目標「地域力を育む良質な住宅ストックの形成」、「安心して住み続けられるしくみの整備」、「地域ごとの特性に応じた住環境づくり」の実現をめざして、住環境に関する様々な施策を効果的、効率的に展開します。



水銀ランプと同等以上の明るさがあり、長寿命・省電力で環境負荷も少ないLED街路灯



踏切を廃止し、代替立体横断施設の設置を検討している学校踏切



スタントマンが自転車事故を再現し、危険性を視覚的に理解させるスケアード・ストレイト